

ICTを利用した教育について

質問：北川議員

コロナ禍の中で府教育委員会が作成した「京都府教育委員会からの挑戦状」のようなICTを利用した教育によって、児童生徒に論理的思考力と、自分や他人の考えを協働し良い考えへと再構築する力の両方を育む学習を効率的に行うことができると考えるが、ICTを利用した教育に関し、次の諸点について、所見を伺いたい。

- (1)「京都府教育委員会からの挑戦状」の取組の成果をどのように捉え、それをどのように府域で展開するのか。また、今後どのようにブラッシュアップしていくのか。
- (2)この教材をICTを活用した教育スタイルとして、将来を見据えた指導用コンテンツの充実をどのように進めるのか。
- (3)ICT教育のメリット、デメリットをどのように認識し、教育環境の整備や教員の指導力の向上をどのように行うのか。

答弁：教育長

北川議員の御質問にお答えいたします。

京都府教育委員会からの挑戦状についてでございますが、昨年4月の一斉臨時休業の中、子どもたちの学びを止めることなく身に付けて欲しい力が育めるよう作成し、更新して参りました。

家庭での学習が知識や技能に偏ってしまいがちな中、挑戦状は難易度別に作成し、教科の学習と、現在や将来の生活との関わりを感じられる課題解決型学習を取り入れ、正解が一つではない課題も提示するなど、知識・技能だけではなく、思考力、判断力、表現力や学びに向かう力も育めるよう工夫しております。

この取組を通じて、一斉臨時休業中の家庭学習での活用だけではなく、各小中学校の教員がその理念や狙いを理解し、学校再開後も、挑戦状を参考に学校独自の課題や、それまで作成していない教科の課題を作成するなどの創意工夫が見られたことが大きな成果であると考えております。

また、GIGA スクール構想により1人1台端末の配備が進む中、挑戦状に取り組む際には、例えば、インターネットで情報収集し、その情報をアプリケーションで図や表にして考えを整理し、プレゼンテーションソフトで表現するなど、ICT を効果的に活用することで、子どもたちの発想や思考をより豊かにできると考えております。

こうしたことにより、個々の学習環境やスピードに合わせた個別最適な学びと、グループで意見を交換し自分の考えを構築する協働的な学びが実現できると考えており、挑戦状の内容だけではなく、ICT を活用した教育スタイルへの転換の観点からもブラッシュアップを進めて参りたいと考えております。

今後、指導用コンテンツの充実に向けては、挑戦状を活用した各学校の優れた実践を共有するとともに、そこから得たノウハウを広く府全域に普及しながら、各学校の教員による ICT を活用した様々な教材作成が進むよう支援し、子どもたちが学びの価値や意義を感じられるよう取り組んで参ります。

次に、ICT 教育の有効性についてでございますが、環境整備に要する継続的な費用負担といった課題のほか、機器の長時間の使用による健康への影響等のデメリットもある一方で、その特性を活かすことにより、黒板への板書時間の削減や、画像や動画を用いた効率的でわかりやすい授業に加え、遠隔でのオンライン授業が可能となり、また、繰り返し視聴できるなど、メリットも大きいものと認識しております。

御指摘のように、ICT はツールであり、教員や子どもたちがどう活用していくかが重要であるため、ハード面の整備だけではなく、例えば、挑戦状のような指導用コンテンツを、教員が授業で実践的に活用し指導できるよう、ソフト面や指導力の向上を一体的に進める必要があります。

そのため、現在策定中の第2期京都府教育振興プランにおいても、あらゆる施策展開にあたり、積極的に ICT を活用していくことを掲げており、例えば学力診断テストについて、タブレット端末を用いる実証研究を行うための予算案を今議会に提案しているところでございます。

また、先進事例の紹介に加えて、積極的に ICT を使ってクリエイティブな授業を実践できる

先駆的なリーダーを育成する研修や、ICT 教育を組織的に進めるための意識改革研修、総合教育センターによる研修動画の提供等に取り組むとともに、教員が探究心を持って学び続け、時代の変化にも対応した資質・能力を身に付けられるよう、教員間のネットワークづくりを進めて参ります。

府教育委員会といたしましては、ICT のメリットやデメリットを踏まえた上で、授業や教育活動での実践を積み重ね、広く発信するとともに、ICT を効果的に活用した協働的な学びへの転換と、そのための教員の利活用能力の向上に、引き続き取り組んで参ります。